



学校だより

温寧の丘

北海道小平高等養護学校
令和7年11月28日
第3号(通算117号)

「開校30周年記念 学校祭」を振り返って

～1学年～

1学年担当

1学年は「同心協力」という題材の元、小平高等養護学校に何を学びに来たのかを知るため、1学年で身に付ける力「自己理解」「コミュニケーション」を日々の国語の学習から学ぶという物語を発表しました。

この学校祭期間を通して、発表をどのように作り上げていくのか、仲間とどのように協力するのか、どのように表現すれば相手に伝わるのか、自分の気持ちが落ち着かないときにどうすればよいのかなど、生徒たちにとって初めての経験の中、時には壁にぶつかることもあったと思います。そんな中、生徒一人一人がよりよい発表になるよう試行錯誤しながら取り組んできました。本番では練習以上の力を發揮し、生徒たちの表情からも達成感や充実感を多く感じている様子が見られました。

今回得た経験を生かし、1学年で身に付ける力「自己理解」「コミュニケーション」を身に付けられるよう『同心協力』し、さらに一步前へ進んでいってほしいと思います。



～2学年～

2学年担当

2学年の演目は「秘密のドウミンSHOW」というタイトルの元、調べた内容の発表や歌唱パフォーマンスに取り組みました。3週間しかない学校祭準備期間の中で、社会では北海道についての調べ学習、音楽では歌唱の練習、情報ではスライド作成や発表の練習、美術では大道具の製作に取り組みました。生徒達が当日身に付けていた蝶ネクタイも家庭科の時間に自分達で作った物になります。予定通りに進まないこともありましたが、生徒同士で声を掛け合って協働する姿も数多く見られました。

当日は緊張した様子も見られましたが、全員が練習の成果を発揮できたと思います。発表後の生徒達から「全力を出し切りました。」や「大きい声を出せました。」という感想が聞こえてきました。何かをやり遂げるという貴重な経験を積むことができたのではないでしょうか。この3週間、本当によく頑張りました。



～3学年～

3学年担当

高校生活最後の学校祭でしたが、大きな問題もなく無事に発表を終えることができました。昨年よりも準備期間が短い事もあり、セリフを覚えるのに苦労しましたが、仲間同士で声を掛け合いながら練習を重ねたことで、自信をもって舞台に立つことができました。シンクロマットの演技では、音楽に合わせて動きをぴったり揃えることができ、練習の成果を十分に発揮できたと思います。また、それぞれが自分の役になりきり、登場人物の気持ちを読み取りながら表現しようとする姿が印象的でした。さらに、「ふるさと」の演奏も全員で息を合わせて演奏することができました。今回の学校祭を通して、仲間と協力することの大切さや、日々の学習が卒後の生活に繋がっていくことを再確認する良い経験になったように思います。



～木工科～

木工科主任

30周年を迎えた本校の学校祭学科販売会ですが、たくさんの方々にご来場いただきまして、盛況のうちに終えることができました。木工科一同、心から感謝いたします。

生徒たちは、この日のために一つ一つの製品に対し、手触りの良さを求めてやすりをかけ、粘り強く丁寧に仕上げ、心を込めて製作に励んで235点の製品を準備させていただきました。生徒一人一人、一生懸命作業学習に取り組んでいることもあり、自分たちの手で作った製品が売れていく様子は、大きな喜びを感じる機会となり、自信に結び付けることとなりました。学科販売会で得られた喜びと経験は、今後の作業学習に対してさらなる意欲の向上へつながることと思います。

当日ご来場、お買い上げいただいた皆様、改めまして心より御礼申し上げます。



～クリーニング科～

クリーニング科主任

今年度の学校祭で行った縁日では、クリーニング科の生徒を中心に他学科の生徒と協働して、計画と準備を行い、実施しました。普段の作業学習ではともに活動することが少ない生徒同士で準備を行いましたが、生徒一人一人が協力して学校祭当日を迎えることができました。また、来場者の皆様に喜んでもらえるような景品を考え、スムーズな進行を行うため、ルールなども生徒たちが主体となり考えながら行うことができました。

当日では地域の方々に多くご来場していただいた上に、小平高等養護学校のOBやOGの方々にも多くご来場し



ていただき、コミュニケーションを取りながら楽しく接客を行う生徒の様子が伺えました。

クリーニング科は今年で募集停止になりますが、これまでお世話になった地域の方々との繋がりを大切にしていき、貢献できますよう、今後もさらなる取り組みを続けていきたいと思います。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

～窯業科～

窯業科主任

今年度は30周年記念学校祭ということで、記念式典で配布する記念品（コーヒーカップ）160個も併せて生産しました。販売会に500点出品したので合計660点の製品を生産したことになります。9月に現場実習があり、作業時間が限られる中、期日に間に合うか不安もありましたが、生徒一人一人が目標個数を達成するために日々努力した結果、見事に作り上げることができました（本焼きで不具合が出てB級品になったものを入れると700点以上は生産しています）。4月から計画的に生産していたとはいえ、夏の市販売会や道の駅受注の製品を作りながら700点以上の製品を作ることは大変なことです。それでも学校祭で来校されるお客様のために頑張った生徒たちは、全部の製品が揃い販売会の準備が整ったときに達成感を噛み締めていました。

当日も自分たちが作った製品に自信をもってお客様にアピールする姿がとても印象的でした。最終的には徳利がひとつだけ売れ残ってしまいましたが、499個の製品が1時間強で売れたことになります。次年度は販売する製品が途中でなくなることがないようさらにたくさんの商品を用意できるよう今年度から準備を進めていきたいと思いますので窯業科の更なる進化にご期待ください。

最後になりますが、多数のご来店、誠にありがとうございました。

生徒会によるオープニング



写真展「私の好きな小平」



文化部による発表



卒業生との校歌齊唱



現場実習を振り返って

進路指導部長

今年度も各学年、現場実習を行いました。今年度は、例年になく9月に入ってからも残暑が厳しい中での現場実習スタートとなりましたが、どの学年も日頃の作業学習や学校生活で身に付けた力を発揮できた現場実習となりました。

1学年は、9月8日（月）から11日（木）までの4日間、鬼鹿地区の水産加工会社や小売店、食堂など6か所に分かれて現場実習を行いました。教師も生徒と共に汗を流し、1日中働くことの大変さや認められることの喜びを体感的に学ぶ貴重な学習となりました。



2学年は、9月8日（月）から19日（木）までの2週間、学校から離れて卒業後の生活をイメージして行いました。働くときのルールやマナーを学んだり、余暇の過ごし方や休日のリフレッシュ方法を試したりと、仕事だけではなく生活全体を通して、自分の将来について具体的に学ぶことができました。



3学年は、9月8日（月）から10月3日（金）までの4週間、来年4月からの雇用形態を見据えて、7~8時間フルタイムで働いたり土曜日、日曜日、祝日の勤務も経験したりしました。11名全員が4週間、一日も休まず、やり遂げることができたことは、さすが3年生だと思います。



毎年、お忙しい中にも関わらず、本校の現場実習を快く受け入れてくださる企業並びに事業所の方々に感謝申し上げます。次年度以降もどうぞよろしくお願いします。